

製品名: PP4R2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16404**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP4R2
別名	PPP4R2; SBBI57; Serine/threonine-protein phosphatase 4 regulatory subunit 2
遺伝子 ID	151987.0
SwissProt ID	Q9NY27
免疫原	抗血清はヒト PPP4R2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 171-220

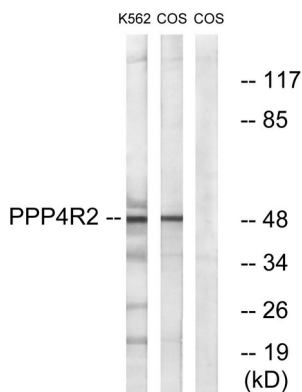
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン / スレオニンタンパク質ホスファターゼ 4 複合体の調節サブユニットである。この複合体は、効率的な DNA 二本鎖切断修復に必須であることに加え、中心体における微小管の組織化とスプライセオソーム

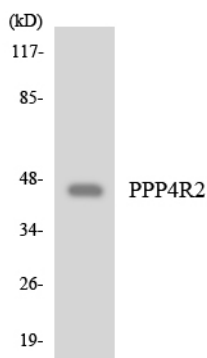
snRNPのプロセッシングにも関与する。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが見出されている。[RefSeq 提供、2015年12月]、機能: セリン/スレオニンタンパク質ホスファターゼ 4 (PP4) の調節サブユニット。中心体微小管形成中心における PPP4C の活性を調節する可能性がある。SMN 複合体との相互作用により snRNP の時間的局在が促進されることから、PPP4C がスプライセオソーム snRNP の成熟に関与していることが示唆される。PPP4C-PPP4R2-PPP4R3A PP4 複合体は、DNA 複製中に生成され、DNA 二本鎖切断修復に必要な、'Ser-140' がリン酸化されている H2AFX (γ -H2AFX) を特異的に脱リン酸化します。配列注意: コンタミネーション配列。ポリ A 配列の可能性あります。類似性: PPP4R2 ファミリーに属します。サブユニット: セリン/スレオニンタンパク質ホスファターゼ 4 (PP4) は、触媒サブユニットと 1 つ以上の調節サブユニットの異なるアセンブリで存在します。PP4 複合体 PPP4C-PPP4R2、PPP4C-PPP4R2-PPP4R3A、および PPP4C-PPP4R2-PPP4R3B の構成要素です。PPP4C-PPP4R2 複合体は、2 分子の PPP4C と 2 分子の PPP4R2 からなる四量体であると考えられます。DDX20/GEMIN3 および GEMIN4 と相互作用する。組織特異性: 広く発現する。

研究分野

画像データ



PPP4R2 抗体を用いた K562 細胞および COS7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PPP4R2 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。

PP4R2 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析

